

HBV-RNAを標的とした新規低分子化合物の開発

助教・渡邊 丈久

大学院生命科学研究部 臨床系 消化器内科学講座

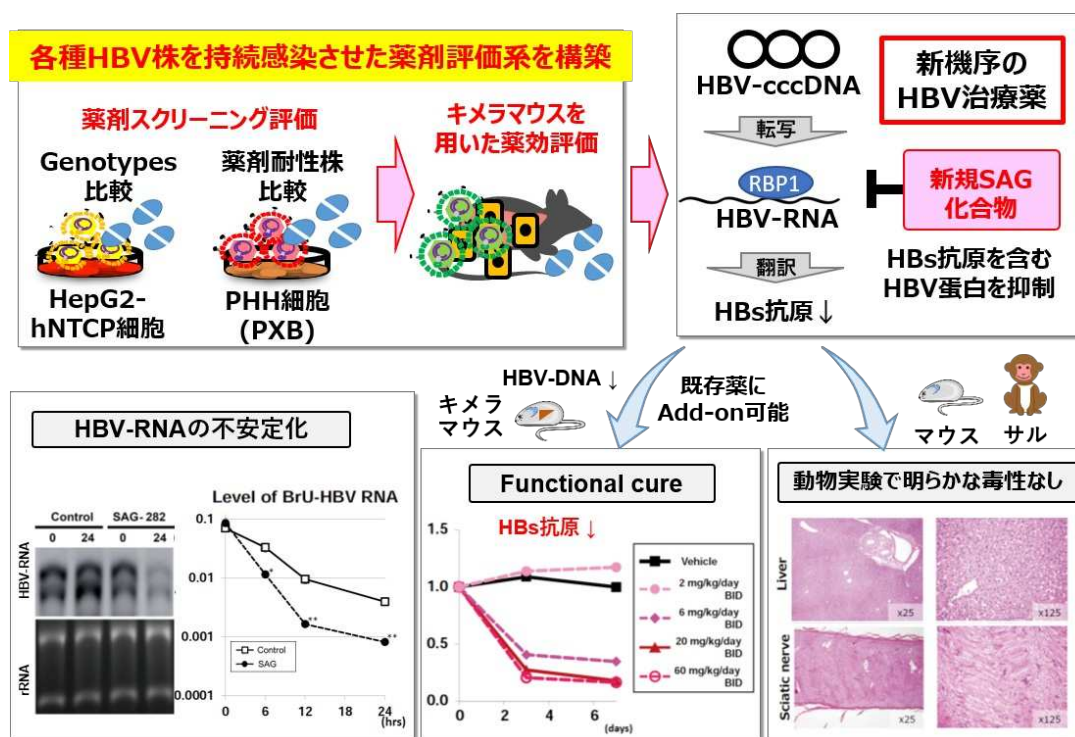
▶ 研究内容

【背景・目的】

B型肝炎の克服にはHBs抗原の陰性化 (Functional cure) を目指した創薬開発が急務である。我々はHBV各Genotype株および薬剤耐性株に対応した薬剤スクリーニング評価系、およびHBV生活環を再現する持続感染モデルを構築し、ウイルス学的・分子生物学的な解析が可能なスクリーニング系を構築した。さらに、この実験系を用いて、新規作用機序を有する化合物を同定しており、前臨床試験から臨床応用を目指している。

【研究概要】

新規HBV治療薬 / SAG化合物



▶ 提供できる技術

- ・ HBV genotype株や薬剤耐性株を用いた薬効/安全性評価系 (in vivo, in vitro)
- ・ 今までの治療薬では得られなかったHBs抗原の低下作用を持つ新規機序のHBV治療薬“SAG化合物”
- ・ 忍容性が高く、Functional cureを誘導し得る、経口のHBV治療薬

▶ 特許

- ・ 特願2015-197725 PCT/JP2018/013580 J Hepatol, revised

▶ キーワード

HBV感染症 HBV-RNAの不安定化 HBs抗原低下 Functional cure 医歯薬学領域 内科系臨床医学 消化器内科学

